

岡山市水道局

# 災害備え大動脈耐震化

## 中央幹線更新工事が完了

岡山市水道局は三野浄水場から市内中心部に送水する基幹管路である中央幹線配水管の更新工事を完了し、4月14日、発進立坑のある三野浄水場で通水式を行った。



大森市長



酒井管理者

中央幹線は昭和初期から昭和30年ごろに布設し、全体の老朽化が進み、早急な更新が必要となっていた。そのため、タクトイル鉄管に布設替え、耐震化を図った。

平成22年7月から三野浄水場から市内中心部の番町共同溝までの2・5キロをシールド工法により掘進し、その中に口径1000×1200mmの配水管を布設した。総事業費は約22億6000万円。

ルート上には山陽新幹線や山陽本線などの杭基礎構造物があったため、これに影響を及ぼさないよう砂礫層の固い地盤を

掘進。最深部は地下17・5メートルに及んだ。そのため、工事は3年8カ月の長期にわたった。

通水式には大森雅夫岡

山市長も出席し、「中央幹線の完成は、安全で安心なおいしい水の安定供給はもとより、地震等の災害にも強い水道管路として市民生活の安全安心の向上に大きく寄与する」とあいさつした。

事では新幹線などの杭基礎構造物の横断や固い地盤の掘進など困難な条件があったが、そのつど創意工夫により解決し目標年度内に完成した」と関係者に敬意と感謝の意を示した。

大阪広域(産)

## AM実践へ情報整理

### 経営・事業評価委開く

通水式後、酒井管理者は「大災害は避けられないが、地震が起きて被害を受けた時、復旧を早くすることがわれわれの使命

酒井五津男水道事業管理者による工事経過報告に続いて来賓が紹介され、則武宣弘市議会議員が代表してあいさつ。工

施工業者の戸田建設、栄光テック、岩水開発、中国水道工業の4社に大森市長から感謝状が贈られた後、関係者一同によ

岡山市水道局

## 浄水発生土再利用へ

岡山市水道局は4月7日、「浄水発生土リサイクル事業におけるリサイクル技術の普及等に関する連携協力」について、共同開発した日本サーモエナー(本社・東京都港区)、テクノ矢崎(同・東京都品川区)、三力製作所(同・東大阪市)の3社と協定を締結した。

## 民間3社と協定



3社と協定書を調印

事業化を目指す、粒径を整える破砕機の開発、水処理装置を組み合わせたプラント設備の設置、販売促進のためのビジネスモデルの研究等を進めてきた。

3社と連携し共同開発した技術を浄水発生土整粒プラントで検証

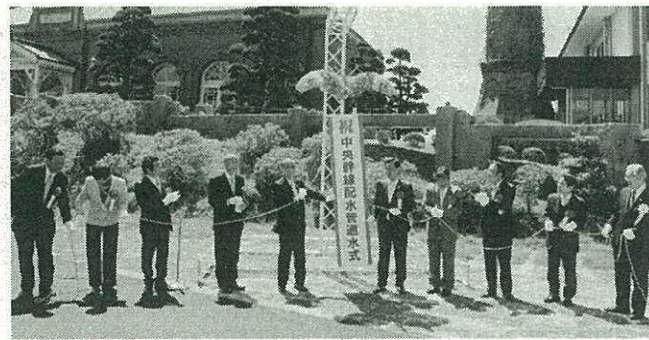
同局では産業廃棄物である浄水発生土の処理に運搬処分費がかかるため、コストを削減し収益を上げる事業として、浄水発生土をリサイクルプラントで製品化・販売することに決めた。平成22年度から

大阪広域水道企業団(企業長 竹山修身現市)は「確立した技術の普及を行うこと」という項目があることから、積極的に製造技術と販売技術を普及させるため、共同で特許出願した連携企業3社と協定を締結することとした。

協定書に調印した酒井管理者は「このリサイクル事業は岡山市水道事業総合基本計画『アクアプラン』の中の資源リサイクル推進事業の一環。22年度から苦勞しながらも根気よく研究開発してきた。この協定により技術を共有し、販路拡大に向けて取組みをさらに波及させ、将来的には他の事業体にも普及させていきたい」と展望を語った。



三野浄水場で行った通水式



完成を祝してくす玉開き

既存資産に関する基本データを整理し、資産の維持管理・更新の考え方について整理した。その上で長期更新需要と長期将来収支見直しを算出。今後、将来の水需要の見直しに対応した適切な施設のダウンサイジングの